


<p>【氏名】 関 雄太（せき ゆうた） 神奈川県出身、1967 年生</p>	
<p>【現職】（株）野村資本市場研究所 シニアフェロー</p>	
<p>【学生へのメッセージ】</p> <p>金融や市場について、川上（制度・政策・戦略）から川下（執行・実践）まで考え、投資家や企業・金融機関を舞台裏で支えるような仕事に携わってきました。</p> <p>近年、人口減少・低成長・気候変動・格差・不確実性など社会課題が複雑化・深刻化するなかで、①資本主義と株式会社システムを避けたり制約をかけるのではなく、むしろ『賢く使い倒す』必要が高まっている、②投資家や従業員などステークホルダーのエンゲージメントをテコにして企業価値を高める、この 2 点が日本経済の活路になると感じるようになりました。お金の投資、あるいは株式会社という仕組みの『意味』を考えてみたい皆様と、さまざまなケーススタディを通じて議論ができることを楽しみにしています（若干の用語や原則を学んでいただくこととなりますが、ファイナンスの専門的な知識や経験は必要としないのでご安心ください）。</p>	
<p>【専門分野】 グローバル資本市場、金融機関経営</p>	
<p>【担当科目】 ガバナンス経営論（ステークホルダーと企業価値経営）</p>	
<p>【主な経歴】</p> <p>慶應義塾大学法学部法律学科卒業</p> <p>南カリフォルニア大学マーシャルビジネススクール MBA 修了</p> <p>1990 年～2004 年 野村総合研究所研究員・コンサルタント</p> <p>2004 年～2011 年 野村資本市場研究所（ニューヨーク事務所主任研究員）</p> <p>2011 年～現在 野村資本市場研究所（東京）（2021 年より現職）</p>	
<p>【主な研究業績/社会的活動】</p> <p>著書（共著、共訳書含む）：「金融サービスの新潮流：ゴールベース資産管理」（日本経済新聞出版）、「ゼロ・コミッション革命：チャールズ・シュワブの顧客目線投資サービス戦略」（金融財政事情研究会）、「地方創生に挑む地域金融」（同）、「総解説・米国の投資信託」（日本経済新聞社）、「検証アメリカの資本市場改革」（同）など</p> <p>不動産証券化協会国際委員会専門委員、投資信託協会海外調査部会専門委員の他、金融庁・日本証券業協会の審議会・有識者会合等における報告・プレゼンテーション多数</p>	
<p>【資格・表彰】 証券アナリスト協会検定委員</p>	